

DASSAI BLUE



ニューヨークに7000石の蔵がオープン

日本酒文化の底上げとアメリカでの定着を目指す



生産者通信

(有)エコ・ライス新編
定価 100円(送料込)

●85億円の投資

摩天楼のNYマンハッタンから高速で約2時間のハイドパークに念願の蔵が完成しました。

旭酒造がアメリカでの蔵建設を始めて、コロナによるロックダウンや建設費の高騰、NY州の規制等で、当初の投資額20億円からはるかに超える85億円の投資額となりました。

特に排水処理に関しては、なんと10億円を要するという、国の違いなのでしようか、莫大な金額となっています。

●CIAとの関係

ハイドパークにある、カリナリー・インスティテュート・オブアメリカ(アメリカ料理研究所略称: CIA)は、短期大学士、学士、修士を付与するプロフェッショナルスクールです。

CIAと瀬祭は関係して、実習先、学生に日本酒の扱い方などを実践で学んでもらうことになりました。落下傘的に日本酒を輸出するだけではアメリカで日本酒の普及は進まないでしょう。

正しい日本酒の知識を学び、知ってもらうことが重要です。

●精米機は3台設置

仕込み蔵から離れた建物に最新鋭の精米機(新中野工業)を設備。

純米大吟醸レベルの精米の場合、3台をフル稼働させると、通年稼働で2万俵の山田錦を精米できます。今回の初仕込みは、栃木県山田錦栽培研究所の山田錦でした。

今後、アーカンソー州で大規模面積の山田錦を栽培することを見越しての精米機の導入と思われるます。



●司会は久保純子さん

NHKを退職され、NYに移り住んだ国民的元アナウンサーが、司会と同時通訳の見事な一役。

会場には多くの方々に参加されていますが、笑わせたり、説明したりと、帰国子女だけあつて流石の英語力はネイティブ。会場を大いに湧かせていました。会場には多士済々の参加者。あらためて瀬祭がアメリカで浸透していることを知ることになりました。



●日米の山田錦生産者

式典の参加には、アーカンソー州で、山田錦を試験栽培(3年)する、'Isbell Farms'として多世代家族稲作農場を経営するご一家が参加。日本からは、新潟県山田錦協議会と栃木県山田錦栽培研究所の海老原社長夫妻、黒川取締役(南河内土地改良区理事長)が生産者として唯一参加。来年夏には、アーカンソーで生育する山田錦と瀬祭BLUEを視察に行くことで意見が一致しました。

